

旧制高等学校資料館ヘルベルト・ツァッヘルト教授関係資料研究

中間報告

井出万秀
(信州大学人文学部)

1. はじめに

松本市県にある旧制高等学校資料館には、旧制松本高等学校（1919—1950）で昭和8年から昭和16年（1933—1941）までドイツ人教師として教鞭をとり、第二次世界大戦後西ドイツのボン大学において日本学研究専攻科を創設し、日独文化交流への多大な貢献により、1969年日本政府より勲三等を授与された故ヘルベルト・ツァッヘルト教授（1908—1979）に関わる資料が保管されている。2001年に日本独文学会秋季研究発表会が松本で開催された折に、旧制松本高等学校所有のドイツ語図書総目録を作成し、旧制高等学校資料館より冊子の形で出版したが、今回は信州大学人文学部内陸文化研究における地域連携の一環として、同資料館のツァッヘルト教授関連の資料整理を中心として資料の電子データ化に取り組んでいる。日本学専攻で来日当初から日本語に堪能であったツァッヘルト教授の存在は各地にあった旧制高等学校の中でも特別であり、旧制松本高校ほどに同氏を通じて後々まで日独文化交流に深い関わりを持ったところはない。これもひとえに教授が家族ともども学生や地域の人々と交流を持ち続けたに他ならないであろう。教授自身の発言や文書以上に教え子から教授に関しての思い出などの文献が数多く集められている。今回の研究では、それらの資料を体系的に分類・整理することをまず手掛けた。このような資料は、国の政策レベルではなく、地域の当事者レベルの文化交流史の資料として貴重であると考えられる。まずは電子データ化した形で目録が誰にでもアクセスできるような状態にすることを目指している。

2. 資料状況

旧制高等学校に関わる様々な資料が資料館には保管されている。旧制松本高等学校のみならず、全国の旧制高等学校からの資料が保管されている。旧制高等学校から引き継がれた諸記録のほか、OBや関係者などから寄贈された資料も多い。全体の資料からすればツァッヘルト教授関係の資料はわずかである。資料の分類にあたっては、まずは次のような大まかな分類が有用であろう。

1. ツァッヘルト教授からの直接資料

教授自身ないしは教授の家族が旧制松高に残したり、または後に資料館に寄贈した資料。資料館やOB会にあってられた手紙などの文書も含む。

2. ツァッヘルト教授についての間接資料

学校便覧、記念写真など学校行事の中で教授が取り上げられている資料、同窓会誌などでの教授に関する寄稿、教授に関しての新聞報道など。

2.1. 直接資料

直接資料の下位分類システムは実際の資料状況を調べ終わるまでは確定できないが、現在の段階では、1) 写真、2) 寄贈図書、3) 手紙、と分類できる。1) の写真については、教授の家族から寄贈されたアルバムが1点ある。2) の寄贈図書は、2001年旧制高等学校資料館から発行された『旧制松本高等学校ドイツ語図書目録』の中から次のものをリストアップすることができる。いずれの図書も信州大学附属図書館の書庫に保管されていることが確認できた。旧制松高の図書目録に記載されていないため上記のドイツ語図書目録の中には含まれていないが、教授の1932年出版の博士論文 *Die kaiserlichen Erlasse des Shoku-Nihongi in Text und Übersetzung mit Erläuterungen. I. Einleitung und Semmyo 1-29. Leipzig: Verlag Asia Major 1932. 128 S. (= Veröffentlichungen des Seminars für Sprache und Kultur Japans an der Hamburgischen Universität. 3.)* が信州大学附属図書館の書庫に保管されている。

Kitabatake, Chikafusa : *Jinno-Shoto-ki. Buch von der wahren Gott-Kaiser-Herrschafts-Linie.*

Übersetzt, eingeleitet und erläutert von Hermann Bohner. I. Band. Tokyo: Japanisch-Deutsches Kultur-Institut, 1935. (524.3/K/1: yk 544 Zachert; S 15. 5. 10)

Behne, Adolf (Hrsg.): *Berlin in Bildern.* Wien/Leipzig: Dr. Hans Epstein, 1929. (950/B/1: yk 525 Zachert: S 14. 10. 26)

Reichsbahnzentrale für den Deutschen Reiseverkehr (Hrsg.): *Deutsche Verkehrsbücher.* 1937 u. o. J. (546/R/1-6: yk 526-531 Zachert: S 15. 1. 29)

Berlin. Magdeburg: A. Wohlfeld, 1937. (546/R/1: yk 526 Zachert: S 15. 1. 29)

Mitteldeutschland. 2. Auflage. Zwickau: Förster & Borries, 1937. (546/R/2: yk 527 Zachert: S 15. 1. 29)

Westdeutschland. Düsseldorf: A. Bagel, o. J. (546/R/3: yk 528 Zachert: S 15. 1. 29)

Süddeutschland. 2. Auflage. Berlin: Albert Fisch, 1937. (546/R/4: yk 529 Zachert: S 15. 1. 29)

Norddeutschland. 2. Auflage. Berlin: Albert Fisch, 1937. (546/R/5: yk 530 Zachert: S 15. 1. 29)

Rhein-Main. Frankfurt a. M.: Schirmer & Mahlau, o. J. (546/R/6: yk 531 Zachert: S 15. 1. 29)

Brachvogel, A. E.: *Friedemann Bach.* Berlin: Th. Knauer Nachf., 1924. (943/B71: yk 515 Zachert: S 14. 6. 7)

Grabein, Paul: *Ursula Drenck. Die Geschichte einer Liebe.* 25.-34. Tausend. Berlin: Globus-Verlag, 1919. (943/G75: yk 524 Zachert: S 14. 10. 26)

Reicke, Ilse: *Treue und Freundschaft. Die Geschichte einer Familie.* Jena: Fromman (Walter Biedermann), 1936. (943/R25: yk 523 Zachert: S 14. 10. 26)

冒頭の図書は教授の専門分野である日本学関係のもので、二番目、三番目の図書はドイツ紹介のための写真入りの冊子である。残りは伝記と小説である。3) の手紙については、すべての所在が確認され一括してまとめられているわけではないため、今後とも資料調査が必要である。旧制松本

高校創立50周年記念に際しての教授からの手紙が創立記念関係のアルバムの中に保管されていたことに窺われるように、資料館の分類項目のすべてにあたってチェックする必要がある。

2.2. 間接資料

間接資料の下位分類も、調査中の現段階では確定したものを提示することができないが、おおよそ次のように分類できる。1) 学校便覧、2) 学校行事記念写真、3) 同窓会誌・一般出版物、4) 新聞報道。1)、2) は教授と同時代の資料である。1) の学校便覧は教授の在任期間、教員名簿に教授が掲載されている。2) の学校行事記念写真は、卒業式、卒業記念アルバムなどの写真が該当するが、卒業記念アルバムがすべての年度にわたって揃っているわけではない。また写真資料は寄贈資料の中にも多く含まれるため、資料館の分類する資料のすべてにわたって確認する必要がある。3) の同窓会誌その他の刊行物に関しては、教授に関する原稿や言及がもっとも多い資料である。『でるです-22』、『縣』、『同窓会報』などが該当する。資料館側ではこれらの定期刊行物に載せられた教授関係の資料をコピーして保存している。それらコピーされた資料のひとつひとつが目録化されているわけではない。今回の調査では、最終的には同窓会誌や一般出版物における教授関連の資料を目録化する予定である。その際、一般出版物に掲載された資料に関しては、その出版物の出版年月日出版社などのデータの他、現物が資料館に保管されているのか、当該の資料のみコピーの形で資料館に送られてきたものであるかを明確にする必要がある。4) の新聞報道に関しては、当時のものから現在のものまで様々である。教授の松本再訪問や、教授の子息の松本訪問など、教授本人のみならず教授の家族も対象となっている。最も新しいところでは、松本生まれの教授長男でドイツ刑事庁長官であったハンス・ツァッヘルト氏が1992年に約半世紀ぶりに松本を訪問したことが大きく取り上げられている。一方、教授が松本に滞在していた当時の新聞報道資料はわずか5点のみである。どのような経緯で当時の新聞報道が保管されるに至ったかは定かではないが、当時の新聞報道に関しては新聞社のアーカイブなどで確認する必要がある。間接資料に関しては、どのようにそれらの資料が資料館で保管されるようになったかが様々である。どちらかと言うとOBなどから寄贈された資料が多いため、同窓会誌なら同窓会誌、新聞報道なら新聞報道といった項目ごとに、体系的に隙間無く資料チェックすることが必要である。

3. 今後の展望

平成16年度中に完結を予定している事項は、1) 資料館がコピーして保管している間接資料の総目録、2) 教授関連の写真資料の確認・目録化、3) 教授または教授の家族からの手紙の確認・目録化、4) 同窓会誌などにおける資料の新たな確認、である。続いて、同時代の新聞報道の確認、へと進む予定である。

旧制高等学校資料館が有している教授関係の資料は、教授の教え子らが教授に関して記したものが中心である。教授自身の直接資料は少ない。教授の日独文化交流への取り組みの中で松本がどのような意味をもっていたのか等に関する教授自身の発言については、資料館の資料からは窺い知ることが困難である。しかし、教授自身の著作などの中から、松本や日本に関する資料を特定していくこともひとつの研究方向であろう。それには教授の家族の方々の協力やボン大学の資料など、ドイツでの調査が必要になる。

旧制高等学校資料館は、旧制高等学校に関わる様々な側面の資料を保管しており、特別な存在であるとはいえツァッヘルト教授の資料のみを保管しているわけではない。また資料館を運営する市の財政状況もあり、新たな特定の研究のために潤沢な予算があるわけではない。むしろ現状維持と何回かの特別展の企画・運営で手一杯であり、資料の電子データ化もそのみで特別のスタッフと予算が割かれるわけではなく、現状のスタッフと予算の中で遣り繰りしなければならないのである。旧制松本高等学校を母体とする信州大学人文学部としては、大学略歴の中で旧制松高が母体であるとただ言及するだけに終わらず、資料館が保管する資料を様々な形で活性化させ、資料整理や確認などの形で資料館の運営に協力して行くべきであろう。「ドキュメントをモニュメントに」はミッシェル・フーコーのことばであるが、あるドキュメントに価値を付しモニュメントにすることが人文学のひとつの役割である。